

事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス事業所 あのにむ	支援プログラム	作成日	2026年	1月	5日
事業所理念	誰もが安心して、ありのままの自分を、のびのびと表現できる世界をつくる					
支援方針	<p>1. 一人ひとりの「その子らしさ」を尊重し、ありのままの自分を肯定できる心を育みます。 事業所名「あのにむ」は「anonym=名もなき人」に由来します。個々の背景や障害名、特性といった表層的な情報にとらわれず、その子の本質的な価値と向き合い、かけがえのない一人の人間として尊重します。</p> <p>2. 音楽を通じた多彩な表現活動により、心と体の健やかな成長を促します。 音楽の持つ力を最大限に活用し、子どもたちが自発的に「楽しい」と感じられる成功体験を積み重ねることで、一人ひとりの可能性を伸ばし、非認知能力（創造性、協調性、自己表現力など）を育みます。</p> <p>3. 子どもの興味関心を起点とした、オーダーメイドの支援を提供します。 一人ひとりの発達段階や興味の対象を丁寧にアセスメントし、個別支援計画を作成します。個別支援を基本としながら、必要に応じて小集団での活動を取り入れ、それぞれの可能性を最大限に引き出します。</p>					
営業時間	9時	30分から	18時	30分まで	送迎実施の有無	あり <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">なし</span>
支援内容（児童発達支援）						
健康・生活	<p><b>【心と体の土台を音楽で育む】</b> 遊びの中で、見通しを持つ力と、自分の心と体への気づきを育みます。音楽を「生活の一部」として取り入れ、心地よいリズムを学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・始まりと終わりの歌（ルーティンの確立）：「始まりの歌」で活動を開始し、「終わりの歌」で締めくくります。歌の中で「こんにちは〇〇さん」「さようなら〇〇さん」とあいさつして場の設定を認識し、「これから楽しいことが始まる」「これで終わり」という見通しを持つことで、心の準備が整い、安心して過ごせるようになります。手洗いやお片付けの歌など、生活習慣に結びつけた音楽も取り入れます。</li> <li>・生活チャイム：「こんにちは」「お片付け」「さようなら」など、場面の切り替えの合図として、ベルや鉄琴などの音を使います。子どもの実態に合わせて、タイマー（残り時間が一目でわかり優しい音が鳴る）を用いるなどして、気持ちを自分でコントロールし見通しを持って行動する力を育みます。</li> <li>・呼吸とからだのあそび：「ふーっ」と息を長く吐く、シャボン玉を飛ばす、羽根を吹く、ろうそくの火を消す真似をするなど、呼吸を意識した遊びを取り入れます。声や音を出す心地よさを感じながら、自然と呼吸のコントロールを学び、気持ちを落ち着ける体験につなげます。</li> <li>・からだを使う音あそび：体のいろいろな箇所を使ってカバサ（こすって鳴らす楽器）を鳴らしたり、振動を感じながらギロやシンバルを鳴らしたりして感覚を楽しみます。たいこやウッドブロックを打ったりスカーフを投げ上げてとったりすることで体幹を鍛え体のバランスを整えます。「いっぽんばしこちよこちよ」のようなわらべ歌で遊び、体に触れたり、目を合わせたりする音あそびを積極的に取り入れます。指導員との愛着関係を育み、心地よい刺激の中で自分の身体の感覚に気づきかけを作ります。</li> <li>・「きもち」の音楽：歌や即興の効果音とともに絵本を読み聞かせ、感情を音楽とともに味わう体験を取り入れます。本人の興味を合わせて、登場人物になりきって寸劇やミュージカルの場面を演じるプログラムも取り入れ、嬉しい、悲しいといった自分の感情に気づき、表現する第一歩を育みます。</li> </ul>					
運動・感覚	<p><b>【音楽で身体を動かし、世界を感じる】</b> 多様な楽器を使い、「音に触れ、感じ、体で表現する」という感覚的な体験を重視する音楽活動によって、粗大運動・微細運動、感覚統合を促します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リトミック・ボディパーカッション（体と動きの気づき）：ピアノの音に合わせて歩く・止まる、手や足でリズムを真似するなど、音と身体の動きを結びつけます。自分の体を意識し、動かす楽しさを感じながら、模倣する力やリズム感を養います。</li> <li>・感覚統合の促進：様々な楽器の音色や響き、音の高低・大小を聴き分け、心地よい音を探します（聴覚）。音に過敏さがある子には、音量を調整したり、カリンパのような優しい音色の楽器から始めたりと、個別のアプローチを大切にします。大きな太鼓などの振動を体で直接感じる（固有覚・前庭覚）、様々な材質の楽器に触れる（触覚）など、多様な感覚入力を楽しみます。</li> <li>・音の探検隊：様々な素材（木、金属、プラスチック）の楽器や、自然物（木の实、小石）などを入れた「音の箱」を用意します。振る、叩く、こするなど、子ども自身が「どうやったら音が出るか」を探求する活動です。音の違いや素材の感触を発見する楽しさを通して、感覚を統合していきます。子どもの興味関心を広げるために、太鼓の皮の上に小さくちぎった紙を置き、叩くと振動で紙切れが踊る様子を楽しむといった音あそびも取り入れます。</li> <li>・スカーフリトミック：音楽に合わせて、カラフルな大きなスカーフを振ったり、揺らしたり、体にまったりします。腕や体全体を大きく動き（粗大運動）を促すとともに、音楽のイメージ（優しい、元気など）を視覚的に捉え、自由に表現する楽しさを育みます。</li> <li>・楽器を使った運動あそび：大きな太鼓を立てて叩く、ピアノの一番低い音から高い音までハイハイで追いかけるなど、ダイナミックな動きを引き出します。また、指先でつまんで鳴らす小さな鈴や弦を爪弾いて鳴らす楽器など、微細運動につながる楽器も用意します。大きく鳴らしたり小さく鳴らしたりする活動を取り入れ、コントロールする力を育てます。</li> <li>・本物楽器にチャレンジ：探求心旺盛な子どもには、指導者の付き添いのもと、グランドピアノやサイズの合った弦楽器などに触れる機会を設けます。指でそっと鍵盤に触れてみる、弦を優しく弾いてみるなど、本物の楽器が持つ響きや振動を体で直接感じる体験は、音楽への興味をさらに引き出します。</li> </ul>					

<p>本人支援</p>	<p>認知・行動</p>	<p><b>【音楽のルールで「わかる」を増やす】</b> 聴覚だけではなく、様々な感覚を使って、一人ひとりの認知特性に合わせて音楽を楽しみます。「こうしたら、こうなる」という単純明快な因果関係の発見や、簡単なパターンの繰り返しを楽しみ、「わかった!」という喜びを育みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・魔法のスイッチ（原因と結果）：子どもがボタン（スイッチ）を押すと音が鳴るミュージックベルやいろんな鳴らし方ができる打楽器を用意します。「自分が押したから、音が鳴った」という直接的な体験は、原因と結果を理解する最も基礎的な学習であり、自己効力感の芽生えにもつながります。この活動をいろんな楽器で応用し「太鼓を思いっきり叩けば、大きな音が出る」「ピアノを優しく押すと、小さい音が出る」「こんなふうにごすとコロコロといい音が鳴る」といった体験を積み重ねます。</li> <li>・まねっこリズムあそび（模倣と短期記憶）：「ワンワン」「ニャーニャー」といった動物の鳴き真似や、「パン・パン」と単純な手拍子など、ごく短いパターンの模倣から始めます。音と動きを真似る楽しさを通して、音声模倣と動作模倣の力を養います。これによって、学習の基本である模倣能力と、短期記憶（ワーキングメモリ）を育てます。</li> <li>・絵合わせフラッシュカード：動物、乗り物、惑星などの絵カードを用意します。もの名前と短い解説とともに絵カードをリズムよく提示し、見て理解すること（視覚）と聞いて理解すること（聴覚）を結びつける力を養います。</li> <li>・色や形を使った音あそび（記号と意味の理解）：「赤いベルを鳴らそう」「何色を鳴らそうかな」「大きな太鼓と小さな太鼓をたたこう」というように、身近な色や形を手がかりに音を出すあそびから始めます。子どもが手に取った楽器に合わせて、指導員が「カエルのギロ」「黄色いマラカス」「〇〇ちゃんの音」と即興で歌い、セッションを楽しみます。特定の音やアクションと歌詞や言葉が対応することを感ずる経験は、ものの名前や標識の理解につながり、文字学習の土台となります。</li> <li>・お決まりパターンの理解（見通しと安心感）：「この手遊びは、最後に『ばあ!』と言う」など単純な繰り返しの構成を楽しみます。次の展開がわかることの楽しさを何度も感じることで、見通しを持って活動に参加する意欲と安心感を育みます。</li> <li>・オリジナルメロディーの採譜：子どもが自発的に口ずさんだハミングや即興のメロディーを、指導員がその場でピアノで再現し、「〇〇くんの歌、すてきなだね」と歌にして伝えます。さらに、その音の流れを色付きの丸や簡単な図形を使い、目に見える形で記録（採譜）することによって、オリジナルソングを次回のセッションでも再現することができます。自分の創造物が認められ、保存されるという経験は、創作意欲を大きく育みます。</li> </ul>
<p>言語コミュニケーション</p>	<p>言語コミュニケーション</p>	<p><b>【音楽に乗せて「伝えたい」を引き出す】</b> 音楽は、言葉の力だけでなく、非言語的なコミュニケーション能力も豊かに育みます。他者への関心の芽生えや、伝えようとする意欲を、音楽の楽しさの中で引き出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱活動（発音・発語の促進）：親しみやすい歌や好きな歌を歌うことで、楽しみながら口の動きや舌の使い方を動かし、声を出す心地よさを体験します。歌詞の繰り返しを通して、言葉の意味や響きに親しみ、語彙力を増やします。</li> <li>・お返事ハイ！：指導員が「〇〇ちゃん」「〇〇くん」とメロディーに乗せて名前を呼ぶと、本人が楽器を鳴らしたり、「ハイ」と声を出したりする活動です。相手の動きかけに反応するという、コミュニケーションの基本的なキャッチボールを学びます。</li> <li>・やりとり絵本（音楽付き）：「だるまさんが」など、繰り返しの多い絵本の読み聞かせに、効果音や短い歌を交えます。指導員と一緒に声を揃えたり、特定の場面で楽器を鳴らしたりすることで、一体感を感じながら言葉や物語の世界に親しみます。</li> <li>・楽器を使った要求表現：「どの楽器がいい?」と問いかけ、子どもが指をさしたり、手を伸ばしたりして選んだ楽器を渡します。「どうぞ」「ありがとう」のやりとりを丁寧に行い、自分の思いを伝える手段を学び成功体験を積み重ねます。</li> <li>・楽器を使った気持ちのやりとり（非言語コミュニケーション）：言葉での表現が難しい子ども、楽器の音なら自分の気持ちを表せることがあります。楽しい気持ちを鈴のキラキラした音で、力強い気持ちを太鼓の音で表現するなど、音を介したやりとりを大切にします。</li> <li>・音楽でおしゃべり（即興セッション）：指導員との信頼関係が築けたら、楽器を使って即興的な音の対話を試みます。子どもが叩いたりリズムにゆだねたり、子どものメロディーに和音をつけたりすることで、言葉を超えた「音楽での会話」を楽しみます。相手の音を聴き、それに反応するというコミュニケーション能力の素地を養います。</li> </ul>
<p>人間関係社会性</p>	<p>人間関係社会性</p>	<p><b>【アンサンブルで「共にいる」喜びを学ぶ】</b> 指導者との「一対一の社会」から、少しずつ他者との関わりへと世界を広げ、人と共にいることの楽しさや安心感を育みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どうぞの楽器：子どもが選んだ楽器（例：タンバリン）をまずは子どもがたたき、指導員が「わたしにも貸してください」と話しかけると子どもが「どうぞ」と手渡す、というシンプルな活動です。順番を待つ、貸し借りするといった、集団生活の基礎となる社会的なスキルを、具体的なやりとりの中で体験します。</li> <li>・せーので「ストップ!」：自由に音を鳴らしている状態から、指導員の合図で「ストップ!」と音を止めます。他者の合図に注意を向け、周りの動きに合わせてという集団でのルールを、ゲーム感覚で学びます。</li> <li>・即興あそびと模倣：子どもの発した声や鼻歌、たたいたリズムに、指導員がピアノや歌で応え、即興的な音楽を楽しみます。大きな音には大きな音で返す、小さな音には小さく返すなどしてセッションを楽しみます。自分の表現が他者に影響を与え、世界が広がる体験を通して、自己肯定感を育みます。</li> <li>・共同注意のトレーニング：指導員の「あの楽器を見て」という声かけや指差しに注目したり、一緒に絵本を見ながら歌ったりすることで、他者と同じ対象に注意を向ける「共同注意」の力を育てます。これは、集団活動に参加するための非常に重要なスキルです。</li> <li>・「できた!」を伝える：セッションの最後に、その日の活動での子どもの素敵な表情や「できた!」の瞬間を、保護者の方に具体的にお伝えします。小さな成功体験と、それを認められる経験の積み重ねが、自己肯定感を育みます。</li> </ul>

<p>家族支援</p>	<p>家族が孤立することなく、安心して子どもの成長を見守り、育児の喜びを感じられるよう、以下の支援を通じて緊密なパートナーシップを築きます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な個別面談と日々の情報共有：児童発達支援管理責任者を中心に定期的な面談の機会を設け、子どもの事業所での様子や成長について丁寧に共有し、家庭での悩みや希望を伺います。セッション後の対面フィードバックや連絡ツールの活用により、日々の活動内容やささいな変化、子どもの輝いた瞬間などを共有することで、家族が安心感を得られるように努めます。</li> <li>・保護者同士の交流の場の提供：親子で参加できる茶話会を計画し、同じ悩みや喜びを分かち合える仲間づくりの場を提供します。</li> <li>専門スタッフも同席し、気軽に相談できる雰囲気を作ります。</li> <li>・音楽を介した親子プログラムの開催：親子コンサートを定期的に開催し、音楽の楽しさを親子と一緒に体験できる参加型のプログラムを通して、自然な触れ合いの場を提供します。</li> <li>家庭でも実践できる音楽あそびのヒントを提供し、親子間のポジティブなコミュニケーションを促します。</li> <li>・ペアレント・トレーニングと学習会の実施：子どもの特性理解や、肯定的な関わり方を学ぶためのペアレント・トレーニングを計画的に実施します。また、外部講師を招いた学習会を開催し、専門的な情報や知識を得る機会を提供します。</li> <li>・活動参加や見学の機会の提供：保護者が支援の様子をいつでも見学できるように、事業所をオープンにします。季節ごとにお楽しみ会などのイベントを企画し、子どもの成長を共に喜び合う機会を設けます。</li> </ul>	<p>移行支援</p>	<p>子どもが次のステージ（保育所、幼稚園、学校、他の障害福祉サービス事業所など）へ自信を持って歩み出せるよう、一人ひとりの状況に合わせて切れ目のない支援を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関との積極的な連携：子どもの移行先となる保育所・幼稚園や学校、他の障害福祉サービス事業所と早期から情報交換を行い、連携体制を構築します。</li> <li>・移行先への訪問・同行支援：必要に応じて、職員が子どもと一緒に移行先の見学や体験に同行します。また、移行先の職員とのケース会議や情報交換会に積極的に参加し、円滑な引継ぎをサポートします。</li> <li>・本人へのアプローチ：絵カードや写真、ソーシャルストーリーを用いて、次の環境への見通しが持てるように働きかけます。就学をひかえた子どもには学校をテーマにした絵本や歌をプログラムに取り入れるなど、新しい生活をテーマにした音楽活動を通して、期待感を育み、不安を軽減します。</li> </ul>
<p>地域支援・地域連携</p>	<p>事業所が地域社会の資源として機能し、障害の有無に関わらず、すべての子どもが尊重される地域づくりに貢献するため、以下の取組を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関とのネットワーク構築：地域の医療機関、相談支援事業所、行政機関、教育機関と常に連携し、子どもたちとその家族に必要な支援が届くようネットワークを構築します。</li> <li>・地域に向けた情報発信と啓発活動：ホームページや広報誌、SNS等を活用し、「あのにむ」の理念や音楽を通じた発達支援の取り組みについて積極的に情報発信を行います。また、発達に気になる子どもとその家族を対象とした「音楽あそび体験会」や、支援者向けの研修会を開催し、地域への啓発活動を行います。</li> <li>・インクルーシブな地域交流の場の創出：利用者に限らず地域住民の方々も入場できるコンサートを定期的に開催し、子どもたちが生の音楽に触れる機会を設けると共に、障害理解を促進する交流の機会とします。</li> <li>・地域資源の活用と連携：地域のアーティストや大学、楽器店などと連携し、特別プログラムを実施するなど、地域の様々な社会資源を積極的に活用します。</li> <li>また、地域のイベント等にも参加し、子どもたちが社会とつながる経験を増やします。</li> </ul>	<p>職員の質の向上</p>	<p>職員の専門知識・技術の向上を目指し、以下のような取組を実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セッションの録画・録音データおよび詳細レポートを用いた支援内容の自己省察と技術向上研修の実施</li> <li>・福祉概論、療育概論、幼児・児童心理学、音楽療法等の基礎研修</li> <li>・音楽療育の技術習得研修</li> <li>・先進施設・事業所等見学会</li> <li>・教材・プログラム研究会</li> <li>・スーパーバイザー（京都市児童発達支援センター等）による指導</li> <li>・講師招聘により、最新の理論や研究結果を学ぶ勉強会</li> <li>・職員（言語聴覚士、理学療法士、保幼小教諭経験者等）同士の交流研修</li> <li>・資格取得研修（強度行動障害支援者養成研修・中核の人材養成研修）</li> <li>・専門書籍の事務所への設置や書籍貸与制度・購入制度の導入</li> <li>・職員同士の相互参観ワークショップ</li> <li>・各職員による日々の療育の成果・課題の言語化および共有</li> </ul> <p>また、支援児童や支援内容の情報共有のために以下の取組を実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援前後のミーティング</li> <li>・デジタルツールによる情報共有環境の構築</li> </ul> <p>加えて、「オール京都体制」の支援・連携ネットワークに入り、地域のニーズに全職員で応えられるチーム体制を構築します。</p>
<p>主な行事等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節のお楽しみ会：季節ごとに、子どもたちが日頃の活動をもとに交流したり、保護者の親睦を深めたりする機会を設けます。</li> <li>・親子向けコンサート：プロの演奏家を招き、未就学児も参加できるコンサートを事業所施設内で開催します。スタインウェイ製のグランドピアノなど質の高い楽器を設置し、子どもたちが本物の音を体験できる機会を提供します。利用者以外も入場可能とすることで、インクルーシブな場としても機能するよう工夫します。</li> </ul>		